しずおかけんはままつし
静岡県浜松市

城山遺跡2004

2004年12月

財団法人　浜松市文化協会

例　言

1　本書は、JR東海敷地内検修庫・検修庫内ピット新設工事に先立ち、東海旅客鉄道株式会社新幹線鉄道事業本部の委託を受けて実施した若林町城山遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2　調査に要する経費は、東海旅客鉄道株式会社が全額を負担した。
3　調査体制 調査受託者　財団法人浜松市文化協会
　　調査指導機関　浜松市教育委員会　生涯学習部　博物館
　　調整担当者　佐野一夫（浜松市博物館）
　　調査担当者　鈴木敏則、清水正敏、村松聡一郎（浜松市博物館）
　　調査補助員　石橋直也、戸塚洋輔、野末亮（浜松市博物館）
　　事務担当　中嶋陽子（浜松市文化協会）
4　調査経緯（佐野執筆）を除く部分の執筆及び本書の編集は、戸塚が行った。
5　調査に係る諸記録及び出土遺物は、浜松市博物館が保管している。
6　標高値は海抜を示す。
7　調査区の位置出しは既存建造物から行った。

第１表　城山遺跡発掘調査一覧表

遺跡名	調査名称	調査期間	調査面積	原　因	調査主体
城山遺跡		1948年8月		ボーリングによる探査	國學院大學
	1次	1949年12月1日～12月10日		試掘調査	國學院大學
	2次	1977年11月18日～12月26日	約400㎡	埋立工事に先立つ範囲確認調査	可美村教育委員会
	3次	1980年1月8日～3月30日	約1000㎡	埋立工事	可美村教育委員会
	4次	1980年7月21日～9月23日	約700㎡	埋立工事	可美村教育委員会
	5次	1992年4～6月・11月	約800㎡	遊戯場建設	(財)浜松市文化協会
	6次	1995年8月1日～11月30日	約1400㎡	社員寮建設工事	(財)浜松市文化協会
	7次	1999年1月20日～3月25日	約1340㎡	新幹線検修庫新設工事	(財)浜松市文化協会
	市下水	2000年12月4日～8日	約88㎡	浜松市下水道工事	浜松市教育委員会
	2004	2004年7月20、21日	約125㎡	JR東海敷地内検修庫・検修庫内ピット新設	(財)浜松市文化協会
(梶子遺跡)	市下水	1994年12月～1995年1月	約31㎡	浜松市下水道工事	浜松市教育委員会
(梶子北遺跡)	市下水	1997年12月1日～12月10日	約91㎡	浜松市下水道工事	浜松市教育委員会

第２表　城山遺跡関係報告書一覧表

遺跡名	調査名称	発　行　者	発行年・月	報　告　書　名
城山遺跡	1次	浜松市役所	1953・9	『伊場遺跡-西遠地方に於ける低地性遺跡の研究-』
	2次	可美村教育委員会	1978	『浜名郡可美村城山遺跡範囲確認調査概報』
	3・4次	可美村教育委員会	1981・3	『城山遺跡発掘調査報告書』
	5次	(財)浜松市文化協会	1993・12	『城山遺跡Ⅴ』
	6次	(財)浜松市文化協会	1997・3	『城山遺跡Ⅵ』
	7次	(財)浜松市文化協会	2000・3	『城山遺跡Ⅶ』
	市下水	浜松市教育委員会	2001・3	『城山遺跡(市下水)』
	2004	(財)浜松市文化協会	2004・9	『城山遺跡2004』
(梶子遺跡)	市下水	浜松市教育委員会	1997・5	『梶子遺跡(その2)』

1　はじめに

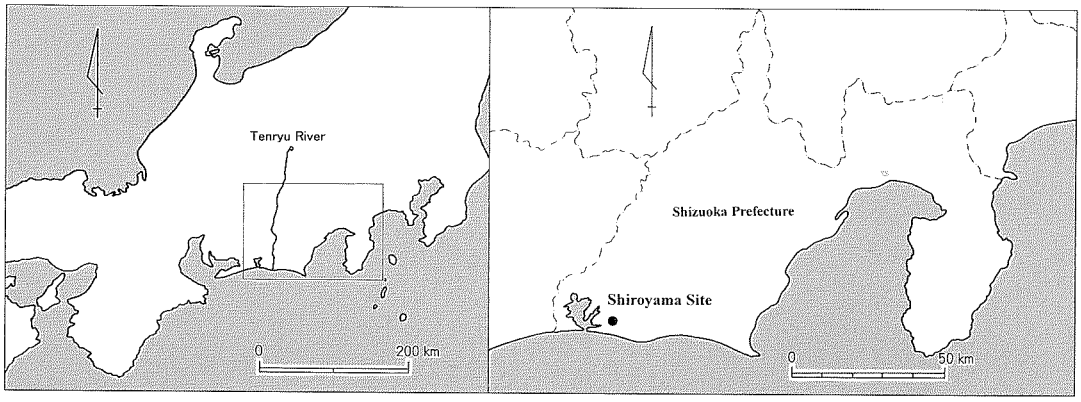
城山遺跡の位置　城山遺跡は、静岡県浜松市若林町に位置する（第1図）。浜松市南部の海岸平野には、現在の中田島砂丘まで含め、8 条の砂丘列が確認されている。最初に形成された第 1 砂丘は三方原台地直下にあり、現在ここに雄踏街道がある。伊場遺跡と城山遺跡は第 1 砂丘の南に位置する第 2 砂丘上に位置する。しかし、砂丘は広範囲に広がっているわけではなく、部分的に認められる程度である。

城山遺跡における今回の調査区は、伊場遺跡、城山遺跡、梶子遺跡を貫く伊場大溝の南側に位置し、北側には梶子遺跡、梶子北遺跡、東側には伊場遺跡がある。また、梶子遺跡 9 次B地区は、梶子遺跡とされているものの、城山遺跡の範囲に含まれる。

古代における城山遺跡の中心は、木簡、唐三彩などが出土した 3～4 次調査区のあたりであると推定されているが、はっきりと判明しているわけではない。また、2～4 次、5 次調査により、中世の方形環濠がここに存在することが判明している。城山遺跡は、周辺の伊場遺跡、梶子遺跡、梶子北遺跡、中村遺跡、九反田遺跡とあわせて奈良・平安時代の遠江国敷智郡衙跡に関連する遺跡であると考えられている。

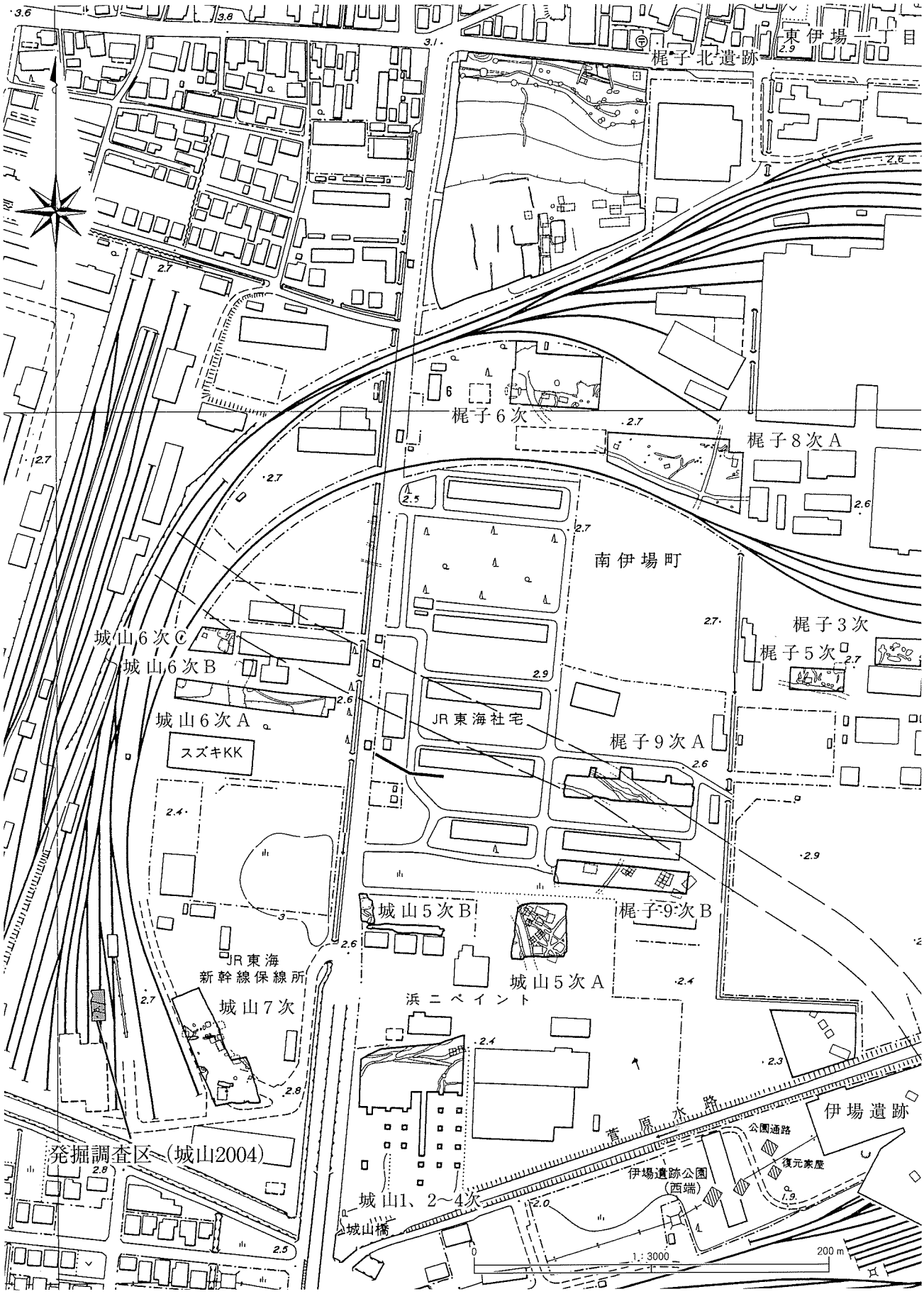
調査経緯　浜松市若林町のJR東海東海敷地内西南部において、検修庫・検修庫内ピット、倉庫、門型クレーンの新設、および線路延伸工事が計画され、文化財保護法第57条の 3 第 1 項による通知が、静岡県教育委員会あてに提出された（平成16年5月7日付）。事業地は、城山遺跡の範囲が及んでいると推定される範囲に位置していた。そのため事業計画と照合したところ、新幹線検修庫（城山遺跡第7次発掘調査地点）の西隣に位置する検修庫・検修庫内ピットの基礎工事が埋蔵文化財確認面より下にまで及ぶと判断され、当該部分約125m²の本発掘調査の実施が、静岡県教育委員会から事業者である東海旅客鉄道株式会社新幹線鉄道事業本部に指示された。

そのため本発掘調査実施の依頼が事業者から浜松市教育委員会あてになされ、浜松市教育委員会の指導のもとに、財団法人浜松市文化協会が本発掘調査を実施することとなった。現地調査は約125m²の範囲を対象とし、2004年 7 月20日～21日にかけて行った。



第 1 図　城山遺跡の位置

浜松市
蔵書
'07.3.31
埋蔵文化財調査事務所



第2図　城山遺跡調査地点とその周辺

2　調査成果

(1) 検出遺構

発掘調査区は、砂丘上に位置する。層位は、上から砕石、黒褐色の盛土層、中世にあたる遺構の可能性がある褐色土と砂の混合層、古代の遺物を含む褐色砂質土層、基盤となる灰色砂層である。調査区南側隅は、他の箇所に比べて少し低くなっている。これは南側隅が削平により攪乱を受けているためであって、本来はほぼ同一の高さであったと考えられる。

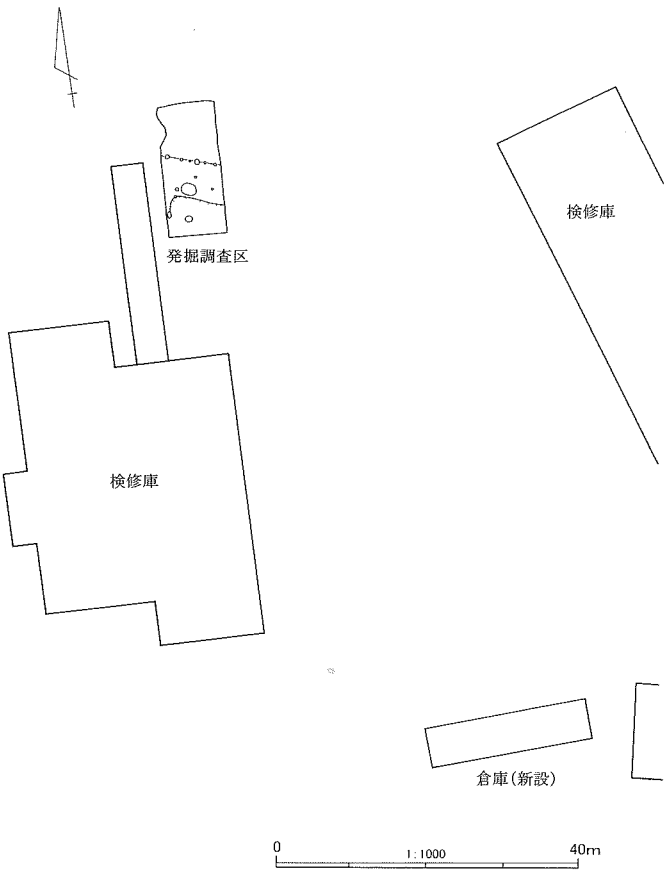
検出した遺構は土坑、小穴である。このうち小穴が規則的に並ぶ箇所があり、これらの小穴群は柵列の痕であると考えられる。遺構の埋土や包含層からは土器の小片や土製品、石製品が出土した。

柵列（SP01・02・03・04・05・06）（第5図）　調査区のやや北寄りにおいて柵列を構成する可能性のある柱穴の列を検出した。方向は北西―南東で、直線的である。柱間寸法は北西から1.8m、1m、0.9m、1m、1.3mである。検出した限りでは長さ5.75mである。SP02～06の間隔は0.9m～1.3mであるが、SP01とSP02の間が1.8mとこれらの間隔より若干離れている。柱穴の規模、形状は径0.35m～0.65mの円形あるいは楕円形であり、深さは0.16m～0.36mである。SP02～SP06は一連の柵列であると考えられ、SP01もこれに続くものである可能性がある。そして調査区外にも北西―南東に連続して存在することが予測される。木片等は検出されず、これらの柱列が横木を伴う柵であったという確証はない。しかしながら、柱の間はほぼ1m以上離れていることから、柵列であった可能性が高いと考えた。

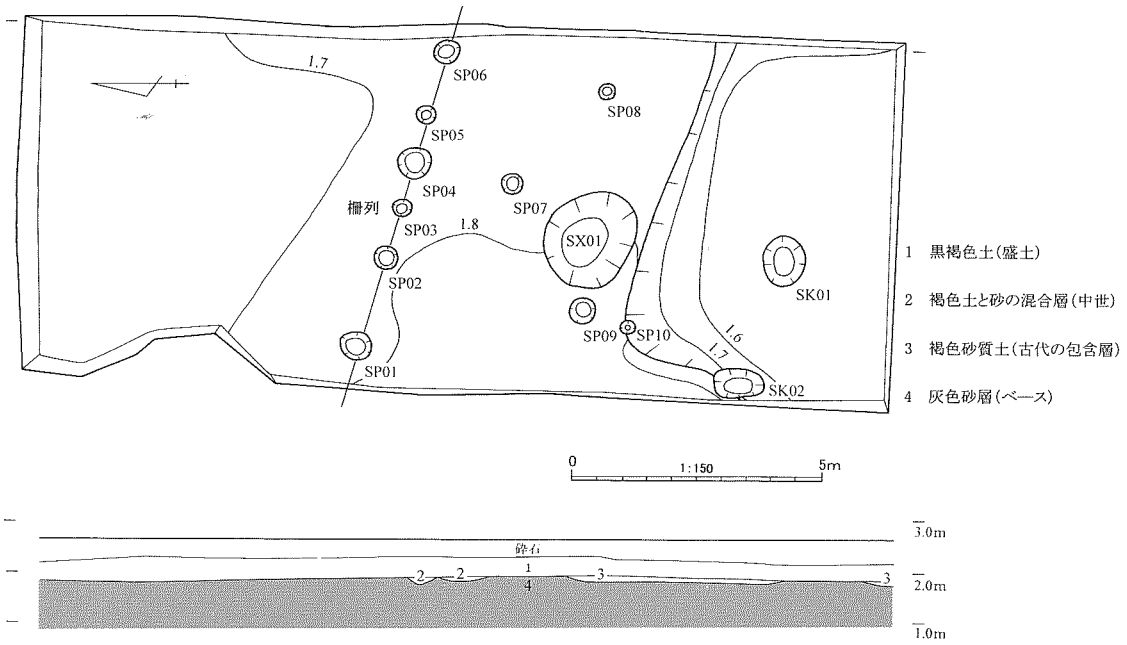
SP01からは7～8世紀の土師器が、SP02からは7世紀の須恵器が、SP04からは7～8世紀の土師器、須恵器が出土した。SP06からは8世紀の可能性がある土師器が出土した。これら小穴から出土した遺物は極めて少なく、いずれも小片である。図示できたのは第6図に示すSP02出土の須恵器坏身口縁部片のみである。いずれも古墳時代終末期～奈良時代（7～8世紀）の遺物であり、柵列の時期も同時期であると判断される。

土坑（SK01、SX01）（第5図）　楕円形や不定形を呈する土坑3基（SK01・02、SX01）を確認した。土坑はそれぞれやや離れて存在する。このうち、SK01、SX01を第5図に示す。楕円形を呈するSK01は長軸0.98m、短軸0.84mで、深さ0.2m程と浅い。SK01からは7～8世紀の土師器壺、甕胴部小片が出土し、この土坑の時期も同時期であると推定される。

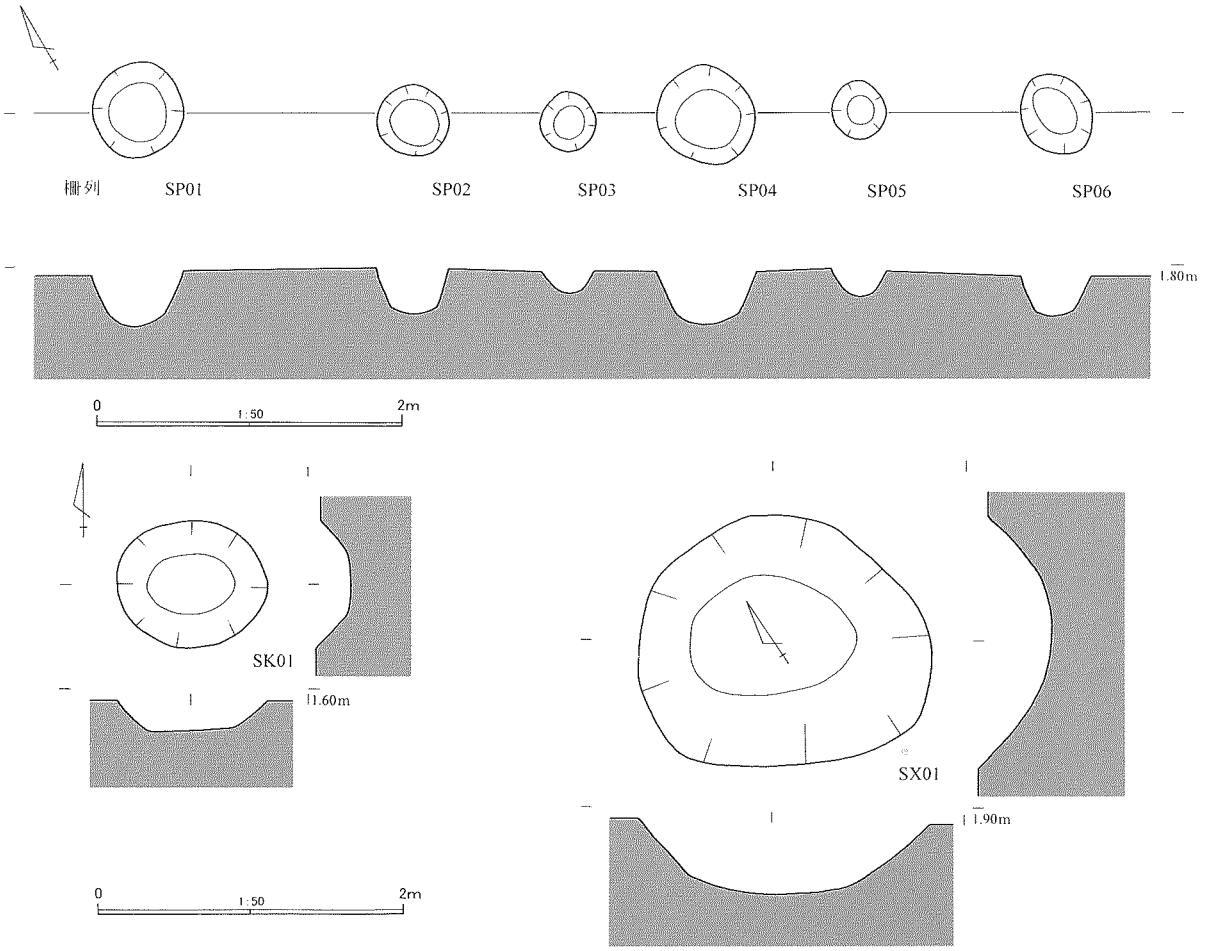
SK02はやや方形に近い楕円形であり、長軸1m、短軸0.5mを測る。深さ0.3m程で、浅い。SK02からは7世紀の土師器甑、古



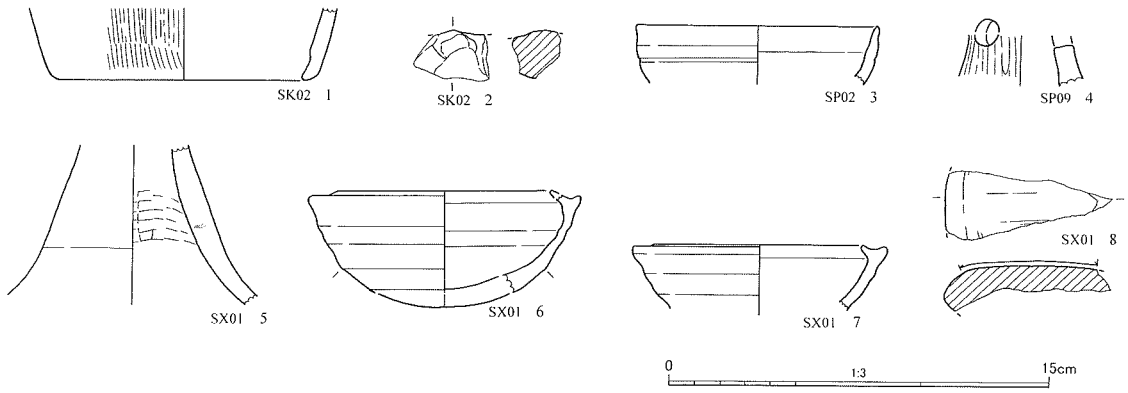
第3図　城山遺跡調査地点の位置



第 4 図　調査区全体図



第 5 図　遺構実測図



第 6 図　出土遺物実測図

墳時代終末期～奈良時代（7～8世紀）の土師器甕、8 世紀の土馬が出土した。いずれも小片であるが、土師器甑と土馬を第 6 図に図示できた。これらの遺物から 7～8 世紀の遺構であると推定されるが、西遠江では 7 世紀にさかのぼる土馬はきわめて少ないことから、8 世紀に近い時期であると推定される。

SX01は、長軸1.9m、短軸1.7m、深さ0.6mの土坑で、不定形を呈する。SX01からは古墳時代中期（5世紀）の土師器高坏、古墳時代後期（7世紀前半）の須恵器坏身、古墳時代終末期～奈良時代（7～8世紀）の土師器甕小片、砥石が出土した。今回の調査で最も多くの遺物が出土した遺構である。しかしながら、出土遺物は小片が多く、第 6 図に示す土師器高坏、須恵器坏身、砥石のみ図示できた。古墳時代中期（5世紀）の土師器が 1 点出土しているものの、7～8 世紀の須恵器や多数の土師器甕小片が出土していることから、7～8 世紀の遺構である可能性が高いと推定される。手がかりに乏しく、これらの土坑の性格は不明である。

SP09　この他に径0.5m程の楕円形を呈するSP09からは古墳時代前期（4世紀）の土師器高坏脚部片と土師器小片が出土している。

（2）出土遺物（第6図）

柵列（SP01・02・03・04・05・06）出土遺物　3 は柵列から出土した遺物である。3 はSP02から出土した須恵器坏身口縁部片である。1 条の沈線が施される。7 世紀に属する。

SK02出土遺物　1 と 2 はSK02から出土した。1 は土師器甑底部片である。7 世紀に属する。2 は土馬の胴部片である。粘土を貼り付けることで鞍が表現されている。SK02では 7～8 世紀の土師器が出土しており、土馬の時期もほぼ同時期であると考えられる。

SX01出土遺物　5～8 はSX01から出土した。5 は土師器高坏脚部片で、古墳時代中期（5世紀）に属する。6、7 は須恵器坏身口縁部片である。ともに古墳時代後期（7世紀前半）に属する。8 は白色凝灰岩製の砥石片であり、使用痕が認められる。20gを測る。SX01では古墳時代中期の遺物がわずかに出土し、古墳時代終末期～奈良時代（7～8世紀）の遺物が主体的に出土しており、砥石は 7～8 世紀にあたる蓋然性が高い。

SP09出土遺物　4 はSP09から出土した土師器高坏脚部片である。古墳時代前期（4世紀）に属する。

第７図　古墳時代終末期～奈良時代（７～８世紀）の城山遺跡

3　まとめ

検出遺構　今回の調査で検出した遺構は、柵列、土坑、小穴である。これらの遺構は、時期を把握できる限りではすべて古墳時代終末期～奈良時代（7～8世紀）にかけてのものである。特に、柵列の可能性が高いと考えた柱穴列は当該期の集落構造を考えるうえで貴重な資料である。柵列は直線的に設定されており、調査区外の北西、南東へと連続して存在する可能性が考えられる。柵列と他の遺構との関係では、検出された土坑、小穴はすべて柵列の南側に位置し、柵列の北側では遺構は検出されなかった。あくまでも狭い範囲ではあるが、柵列の南側に遺構が存在し、これに反してその北側では遺構の分布が希薄である点を指摘できる。ただし、柵列の北側も削平を受けているおそれがあり、本来遺構が存在した可能性がある。

古墳時代終末期～奈良時代（7～8世紀）の城山遺跡（第7図）　柵列の検出は、城山遺跡における古墳時代終末期～奈良時代の集落構造の一部を把握できたにすぎない。今回の調査区の東に位置する 2～4 次調査区でも 7 世紀末～ 8 世紀にあたる 2 条の杭列が検出されており、それぞれ約40mと約20mの間にわたって確認されている。これらの杭列も柵であった可能性を考慮する必要があろう。今回検出したものとは時期がほぼ重なるが、両者の関係性は明確ではない。

過去における遺構の検出状況をみると、2～4 次調査区で前述した 7～8 世紀にあたる 2 条の杭列が、5 次調査B地区で 7 世紀前半の竪穴住居 1 軒が検出されている。また時期がやや近いものとして、6 次調査C地区で 6 世紀末～ 7 世紀に属する 3 軒の竪穴住居が、7 世紀代に属する掘立柱建物 1 棟が検出されている。7 次調査区では 7 世紀末～ 8 世紀初頭の竪穴住居数軒、掘立柱建物数棟が検出されている。5 次調査A区、梶子遺跡 9 次調査B区では 7 世紀前半の掘建柱建物群が検出されている。今回検出された柵列、2～4 次調査区で検出された杭列は、これらの掘立柱建物群にともなうものと推定されるが、具体的な対応関係などは把握することが難しい。強いていえば、7 次調査区で検出された掘立柱建物群は、今回の調査区の東南近くに位置し、柵列の南側に掘立柱建物群が広がっているものとみることができる。しかしながら、柵列を検出したのはあくまで狭い範囲であり、柵列の広がりは不明である。いずれにしても、周辺のより広範囲な遺構群のなかで構造を把握していくことが求められ、この点は今後の調査で再検討していく必要があると考える。

参考文献

静岡県浜名郡可美村教育委員会1981『城山遺跡調査報告書』
財団法人浜松市文化協会1993『城山遺跡Ⅴ』
財団法人浜松市文化協会1997『城山遺跡Ⅵ』
財団法人浜松市文化協会2000『城山遺跡Ⅶ』
浜松市教育委員会・浜松市下水道部2001『城山遺跡（市下水）』

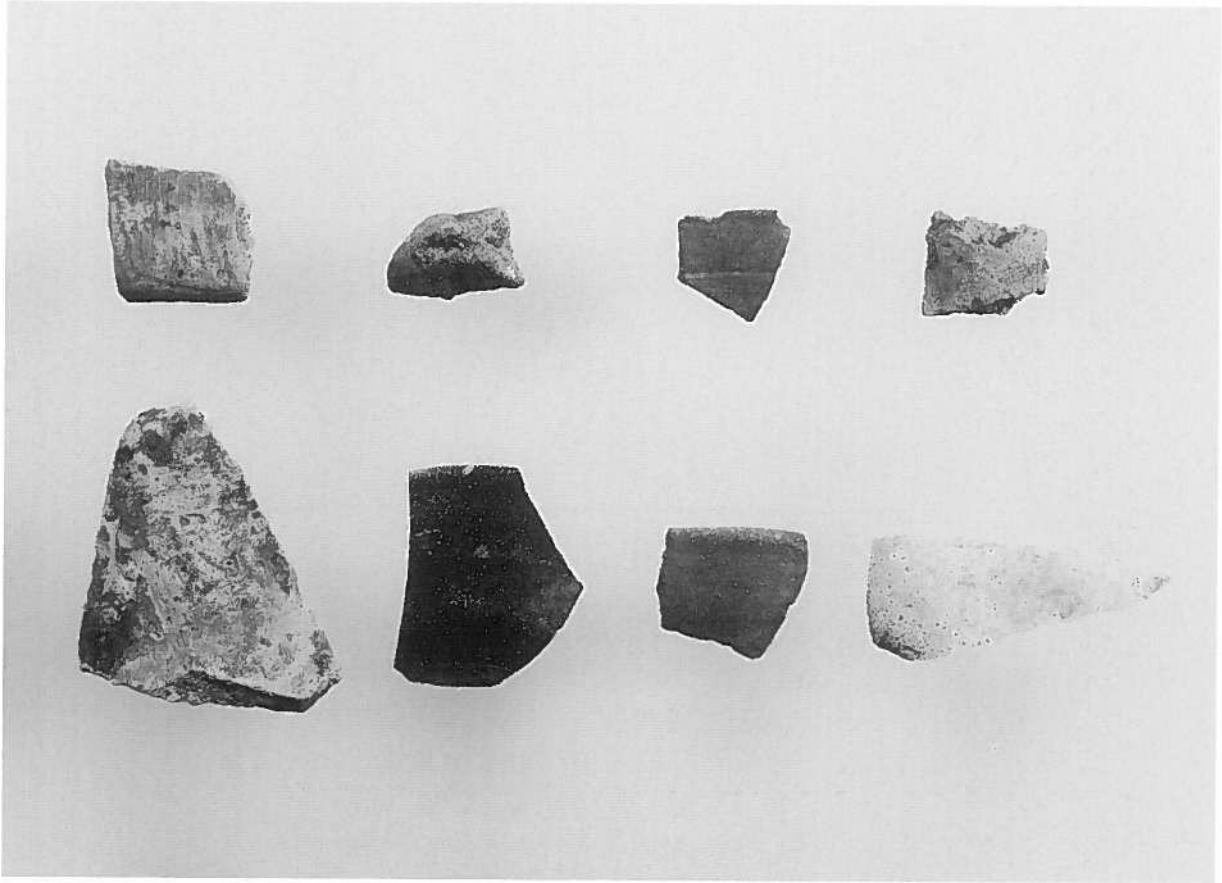
写真図版 1

1　調査区全景（北から）

2　調査区全景（南から）

写真図版 2

1　柵列（南東から）



2　主要出土遺物

報告書抄録

書名（ふりがな）	城山遺跡（しろやまいせき）2004
編著者名	戸塚洋輔
編集機関	浜松市博物館 静岡県浜松市蜆塚４丁目22-1　TEL（053）456-2208
発行機関	財団法人　浜松市文化協会 静岡県浜松市早馬町2-1　　TEL（053）453-5234
発行年月日	2004年12月17日

遺跡名(ふりがな)	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
城山遺跡（しろやまいせき）	静岡県浜松市	22202	22 - 1	34度41分9秒	37度42分29秒	2004年7月20、21日	約125m²	工場新設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
城山遺跡	官衙集落	古墳時代中期		土師器	
		古墳時代終末期～奈良時代	柵列 土坑	須恵器 土師器 土馬 砥石	敷智郡衙周辺部において柵列を検出

城山遺跡2004

2004年12月17日発行

編　集　浜松市博物館　〒430-8018
静岡県浜松市蜆塚4丁目22-1
TEL　(053)456-2208
FAX　(053)456-2275
発　行　財団法人　浜松市文化協会
印　刷　株式会社　シバプリント